



お盆期間に「のぞみ12本ダイヤ」で過去最多の455本運転！
乗客の「三密」は防いでも社員の感染リスクが高まる？！
臨時列車の運転計画は労働組合と協議し社員の感染防止を最優先すべきだ！

コロナウイルス感染症は6月26日に東京都で54名、全国で105名と依然として多くの新規感染者が確認され、終息にはほど遠い状況です。しかし緊急事態宣言が解除され、県境間移動の自粛要請が解除されたなかで、会社は6月24日「ご利用が緩やかに回復している状況であり、今後ご利用が徐々に回復した際にも十分な輸送サービスを提供するため、のぞみ号の臨時列車を設定する」として「東海道新幹線7月・8月の運転計画について」を発表しました。これによるとお盆期間は「のぞみ12本ダイヤを活用し多くの臨時列車を設定する」「一日平均で前年より11本多い431本を運転。8月16日には過去最多となる455本の列車を運転する」としています。

多くの列車を運転することで乗客の「三密」は防ぐことができるかもしれませんが。しかし乗務員や駅係員をはじめとする社員、関係会社社員の職場環境はどうですか？多くの列車を運転することで職場が「三密」になりませんか？特効薬もワクチンも存在しないなかで感染の恐怖にさらされながら業務に就いていませんか？

会社は今回の運転計画についても労働組合に一切説明していません。コロナウイルスの感染防止についても「手洗い・うがい等の徹底で感染防止の徹底」と言うだけです。この姿勢からは感染防止を真剣に考えているとは思えません。

また、会社は年度初めの要員計画の窓口説明で「前年度と同様の輸送量となった場合の休日出勤数は1～2泊程度である」と説明しました。もしかすると、お盆期間中に一方的な休日出勤が指定されるかもしれません。これでは十分な休養を取ることはできず感染リスクが高まります。感染防止の観点からも、会社は一方的な休日出勤を指定することをやめるべきです。

職場でも多くの社員が待機場所にいれば、当然「三密」状態になるのは避けられません。臨時列車の運転計画は、十分な要員と職場環境を確保した上で、労働組合と協議し、社員、関係会社社員をコロナウイルス感染症に感染させないことを最優先に考えるべきです。